



## セキュリティ モジュール/エンジン管理

- [FXOS セキュリティ モジュール/セキュリティ エンジンについて \(1 ページ\)](#)
- [セキュリティ モジュールの使用停止/再稼働 \(2 ページ\)](#)
- [セキュリティ モジュール/エンジンの確認応答 \(3 ページ\)](#)
- [セキュリティ モジュール/エンジンのリセット \(4 ページ\)](#)
- [セキュリティ モジュール/エンジンの再初期化 \(4 ページ\)](#)
- [ネットワーク モジュールのオフラインまたはオンラインの切り替え \(6 ページ\)](#)
- [インストールされているモジュール/エンジンの電源オン/オフ \(7 ページ\)](#)

## FXOS セキュリティ モジュール/セキュリティ エンジンについて

FXOS CLI を使用して、セキュリティ モジュール/エンジンの次の機能を実行できます。

- **[Decommission/Recommission]** (セキュリティ モジュールのみ) : セキュリティ モジュールを使用停止にすると、セキュリティ モジュールはメンテナンスモードに設定されます。また、特定の障害状態を修正するために、セキュリティ モジュールを使用停止にしてから再稼働することもできます。 [セキュリティ モジュールの使用停止/再稼働 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- **[Acknowledge]** : 新たにインストールされたセキュリティ モジュールをオンラインにします。 [セキュリティ モジュール/エンジンの確認応答 \(3 ページ\)](#) を参照してください。
- **[PowerCycle]** : セキュリティ モジュール/エンジンを再起動します。 [セキュリティ モジュール/エンジンのリセット \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- **[Reinitialize]** : セキュリティ モジュール/エンジンのハードディスクを再フォーマットし、導入済みのすべてのアプリケーションや設定をセキュリティ モジュール/エンジンから削除し、システムを再起動します。論理デバイスがセキュリティ モジュール/エンジンに設定されている場合は、再初期化が完了すると、Firepower eXtensible Operating System はアプリケーションソフトウェアをインストールし、論理デバイスを再度導入し、アプリケーションを自動的に起動します。 [セキュリティ モジュール/エンジンの再初期化 \(4 ページ\)](#) を参照してください。



**警告** セキュリティ モジュール/エンジンのすべてのアプリケーションデータが再初期化時に削除されます。セキュリティ モジュール/エンジンを再初期化する前に、すべてのアプリケーションデータをバックアップしておいてください。

- [Poweroff/on] : セキュリティ モジュール/エンジンの電源状態を切り替えます。 [インストールされているモジュール/エンジンの電源オン/オフ \(7 ページ\)](#) を参照してください。

## セキュリティ モジュールの使用停止/再稼働

セキュリティ モジュールを使用停止にすると、セキュリティ モジュール オブジェクトが設定から削除され、そのセキュリティ モジュールは管理対象外になります。セキュリティ モジュール上で実行していた論理デバイスやソフトウェアは非アクティブになります。

セキュリティ モジュールの使用を一時的に中止する場合に、セキュリティ モジュールを使用停止にできます。また、セキュリティ モジュールを再起動してもエラー状態が修正されない場合は、使用停止を試してから、セキュリティ モジュールを再稼働させることで、セキュリティ モジュールを再初期化しなくてもエラー状態を修正できるかどうかを確認できます。



(注) `delete decommissioned` コマンドを使用してモジュールを削除するには、その前に、モジュールを使用停止にする必要があります。

### 手順

**ステップ 1** モジュールを使用停止にするには、`decommission server` コマンドを入力します。

```
decommission server {ID | chassis-id/blade-id}
```

使用停止にするモジュールをホストしているデバイスの種類によって、モジュールはモジュールIDで識別されるか (4100 シリーズ)、シャーシ番号とモジュール番号で識別されます (9300 デバイス)。

例 :

```
FP9300-A# decommission server 1/2
FP9300-A* #
```

**ステップ 2** `commit-buffer` コマンドを入力して変更をコミットします。

**ステップ 3** モジュールを再稼働するには、`recommission server` コマンドを入力します。

```
recommission server "vendor"
model
serial_number
server
```

値は次のとおりです。

- `vendor` は、サーバを製造した会社の名前です。入力できる最大文字数は 510 文字です。
- `model` は、サーバ モデル ID です。入力できる最大文字数は 510 文字です。
- `serial_number` は、サーバのシリアル番号です。入力できる最大文字数は 510 文字です。
- `server` は、インストールスロットです。入力できる最大文字数は 255 文字です。これは、4100 シリーズ デバイスではオプションとなります。

使用停止にされたモジュールの一覧を表示するには、`show server decommissioned` コマンドを使用します。

例：

```
FP9300-A# recommission server "Cisco Systems, Inc."
Cisco Firepower 9000 Series Security Module
FLM1949C6J1
2
FP9300-A* #
```

**ステップ 4** `commit-buffer` コマンドを入力して変更をコミットします。

## セキュリティ モジュール/エンジンの確認応答

新しいセキュリティモジュールがシャーシに取り付けられた後、または既存のモジュールが異なる製品 ID (PID) を持つモジュールで交換された後、セキュリティモジュールを確認応答してからでなければ、そのモジュールを使用することはできません。

セキュリティモジュールのステータスが `[mismatch]` または `[token mismatch]` として示されている場合、スロットに取り付けたセキュリティモジュールのデータが、そのスロットに以前インストールされたデータと一致していないことを意味します。セキュリティモジュールに既存のデータがあり、新しいスロットでそのデータを使用する（つまり、そのセキュリティモジュールは不注意で誤ったスロットに取り付けられたのではない）場合は、論理デバイスを展開する前に、セキュリティモジュールを再初期化する必要があります。

手順

**ステップ 1** `/fabric-interconnect` モードを開始します。

```
scope fabric-interconnect a
```

**ステップ 2** 交換しないモジュールを使用停止にして物理的に取り外した後、またはモジュールを同じタイプではない（つまり、異なる PID を持つ）別のモジュールと交換した後、`acknowledge slot` コマンドを入力します。

```
acknowledge slot
```

例：

```
FP9300-A# scope fabric-interconnect a
FP9300-A /fabric-interconnect # acknowledge slot 2
FP9300-A /fabric-interconnect* #
```

**ステップ3** `commit-buffer` コマンドを入力して設定をコミットします。

## セキュリティ モジュール/エンジンのリセット

セキュリティ モジュール/エンジンの電源の再投入を行うには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ1** `/service-profile` モードを開始します。

```
scope service-profile server {chassis_id>/blade_id}
```

例：

```
FP9300-A # scope service-profile server 1/1
FP9300-A /org/service-profile #
```

**ステップ2** 次のいずれかの `cycle` コマンドを入力します。

- `cycle cycle-immediate` : 直ちにモジュールの電源の再投入を行います。
- `cycle cycle-wait` : システムはモジュールで実行中のアプリケーションがシャットダウンするまで最大 5 分待ってから、モジュールの電源の再投入を行います。

例：

```
FP9300-A /org/service-profile # cycle cycle-wait
FP9300-A /org/service-profile* #
```

**ステップ3** バッファをコミットしてモジュールの電源の再投入を行います。

```
commit-buffer
```

## セキュリティ モジュール/エンジンの再初期化

セキュリティ モジュール/エンジンを再初期化すると、セキュリティ モジュール/エンジンのハードディスクがフォーマットされ、インストールされているすべてのアプリケーションインスタンス、設定、およびデータが削除されます。論理デバイスがセキュリティ モジュール/エンジンに設定されている場合は、再初期化が完了すると、FXOSはアプリケーションソフトウェアを再インストールし、論理デバイスを再度導入して、アプリケーションを自動的に起動します。



**注意** セキュリティ モジュール/エンジンのすべてのアプリケーション データが再初期化時に削除されます。セキュリティ モジュール/エンジンを再初期化する前に、すべてのアプリケーション データをバックアップしておいてください。

## 手順

**ステップ 1** セキュリティ サービス モードを開始します。

```
scope ssa
```

**ステップ 2** 目的のモジュールでスロット モードを開始します。

```
scope slot {slot_id}
```

例 :

```
FP9300-A # scope ssa
FP9300-A /ssa # scope slot 2
FP9300-A /ssa/slot #
```

**ステップ 3** `reinitialize` コマンドを入力します。

例 :

```
FP9300-A # scope ssa
FP9300-A /ssa # scope slot 2
FP9300-A /ssa/slot # reinitialize
Warning: Reinitializing blade takes a few minutes. All the application data on blade
will get lost. Please backup application running config files before commit-buffer.
FP9300-A /ssa/slot* #
```

**ステップ 4** 必要に応じて、アプリケーションのコンフィギュレーションファイルをバックアップします。

**ステップ 5** モジュールを再初期化するためのバッファをコミットします。

```
commit-buffer
```

モジュールが再起動し、そのモジュール上のすべてのデータが削除されます。このプロセスには数分かかることがあります。

**ステップ 6** `show detail` コマンドを使用すると、再フォーマット化操作の進行状態、再フォーマット化の結果（成功または失敗）、さらに操作が失敗した場合はエラーコードを確認することができます。

# ネットワークモジュールのオフラインまたはオンラインの切り替え

CLIコマンドを使ってネットワークモジュールをオフラインにしたりオンラインに戻したりするには、次の手順を実行します。この方法は、モジュールのオンライン挿入や削除（OIR）を実行する場合などに使用されます。



- (注) ネットワークモジュールを取り外して交換する場合は、お使いのデバイスに該当するインストールガイドの中で、メンテナンスとアップグレードの章にある指示に従ってください。  
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/firepower-ngfw/products-installation-guides-list.html>を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** 次のコマンドを使用して /fabric-interconnect モードに入った後、オフラインにする対象のモジュールの /card モードに入ります。

```
scope fabric-interconnect a
scope card ID
```

- ステップ 2** `show detail` コマンドを使用すると、このカードに関する、現在のステータスなどの情報を表示することができます。

- ステップ 3** モジュールをオフラインにするには、次のコマンドを入力します。

```
set adminstate offline
```

- ステップ 4** `commit-buffer` コマンドを入力して、設定の変更内容を保存します。

再度 `show detail` コマンドを使用すると、モジュールがオフラインであることを確認できます。

- ステップ 5** ネットワークモジュールをオンラインに戻すには、次のコマンドを入力します。

```
set adminstate online
commit-buffer
```

## 例

```
FP9300-A# scope fabric-interconnect a
FP9300-A /fabric-interconnect # scope card 2
FP9300-A /fabric-interconnect/card # show detail
```

```
Fabric Card:
  Id: 2
```

```
Description: Firepower 4x40G QSFP NM
Number of Ports: 16
State: Online
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR-NM-4X40G
HW Revision: 0
Serial (SN): JAD191601DE
Perf: N/A
Admin State: Online
Power State: Online
Presence: Equipped
Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A
FP9300-A /fabric-interconnect/card # set adminstate offline
FP9300-A /fabric-interconnect/card* # commit-buffer
FP9300-A /fabric-interconnect/card # show detail

Fabric Card:
Id: 2
Description: Firepower 4x40G QSFP NM
Number of Ports: 16
State: Offline
Vendor: Cisco Systems, Inc.
Model: FPR-NM-4X40G
HW Revision: 0
Serial (SN): JAD191601DE
Perf: N/A
Admin State: Offline
Power State: Off
Presence: Equipped
Thermal Status: N/A
Voltage Status: N/A
FP9300-A /fabric-interconnect/card #
```

## インストールされているモジュール/エンジンの電源オン/オフ

セキュリティ モジュールまたはネットワーク モジュールの電源の再投入を行うには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ1** 適切なサービス プロファイルを入力します。例：

```
scope service-profile server 1/1
```

**ステップ2** 次のいずれかの `cycle` コマンドを入力します。

- `cycle cycle-immediate` : 直ちにモジュールの電源の再投入を行います。
- `cycle cycle-wait` : システムはモジュールで実行中のアプリケーションがシャットダウンするまで最大5分待ってから、モジュールの電源の再投入を行います。

■ インストールされているモジュール/エンジンの電源オン/オフ

ステップ3 `commit-buffer` コマンドを入力して要求をコミットします。

---